

## 令和4年度第4回社会教育委員の会議 議事録

令和4年度第4回清瀬市社会教育委員の会議が令和4年10月24日に開催された。出席委員、議事の概要は次のとおり。

- 1 日 時 令和4年10月24日（月）午後3時00分～午後4時30分
- 2 開催場所 清瀬市役所2階 市民協働ルーム（対面開催）
- 3 出席委員 （対面参加）  
高井正議長、齊藤しのぶ副議長、玉置昌也委員、永嶋昌樹委員、相蘇好委員  
（オンライン参加）  
松山鮎子委員
- 4 事務局 峰岸義治（生涯学習係長）、若林幹輝（生涯学習係主事）

### 1 開会

高井議長：第4回社会教育委員の会議の開会を宣言。

事務局：開催方法の確認（対面開催。松山委員はオンラインで途中参加。）

資料の確認（社会教育関係団体補助金、学校運営協議会）

西田委員欠席の旨を報告。

（事務局）

議事進行について高井議長にお願いしたい。

（高井議長）

第4回会議を始めたいと思う。今日は、生涯学習基本方針を用意していただいた。これは、社会教育委員の会議から答申という形で出させていただいたものがこのような形でまとまっているものである。今日はその他にも、生涯学習スポーツ課の取り組みだったり、出前事業の資料なども出していただいている。私も社会教育委員だが、なかなか市が推進している施策のことをよく理解してない部分もあるので、事務局にお願いをして出していただいている。また今度はこういったものを基にしながら意見交換の部分を進めていければと思っている。

まずは事務局から報告をお願いしたい。

## 2 報告等

### 学校運営協議会（第2回、第3回）の報告について

（事務局）

学校運営協議会の第2回と第3回の報告についてです。お手元の第2回学校運営協議会議事録という資料をご覧いただきたい。令和4年の9月3日に第2回の学校運営協議会が開催された。菊地校長から4点ほど報告や相談事項があった。

内容としては、一つ目に、学校支援本部で熱中症対策のためにミストを学校支援本部に取り付けてもらった、ということであった。

二つ目に、校庭開放で学校を使用する方向けに自動販売機を設置する予定で、売り上げは学校運営協議会や学校支援本部関係に使用する予定である、ということであった。

三つ目に、校庭にある動物の飼育小屋を捨てるつもりだが、コミュニティ・スクールで再利用できないか意見が欲しい、ということであった。

四つ目に、学校への要望を受け付ける仕組みを市のホームページに入れられないか検討している、ということであった。

このようなご報告があり、このことについて委員の方からご意見をいただき、議論を行った。また、スーパーバイザーの増田氏からのアドバイスとして、「コミュニティ・スクールになって具体的にここが変わったと思ってもらえるよう、まずは見た目を変えていくことを意識することが大切である。」というお話があった。学校運営協議会の後は、学校運営協議会委員研修として、コミュニティスクールについて、「保護者や地域の方々の役割と取り組み」というテーマで、スーパーバイザーの東京学芸大学の浅野先生から講義を行っていただいた。これは、学校運営協議会委員に対してだけでなく、地域の人に対してもオンラインで配信を行った。

続いて、第3回の学校運営協議会の報告である。令和4年の10月15日の土曜日に開催された。会長からは、「今回が実質的に初めての学校運営協議会の協議の場になるので、今後のコミュニティ・スクールの活動について前向きな話し合いになれば良い。」という挨拶があった。本会議では、セーフティ教室についての意見交換や6小の土曜講座の課題についての議論を行った。議論の中身については、恐れ入りますが議事録の方を後程ご覧いただければと思う。学校運営協議会の報告は以上である。

（高井議長）

この報告を社会教育委員が聞くという意味であるが、私が考えるには、社会教育委員の会議の中で6小の菊地先生も委員で入っていただき、かなり色々な議論してきたという経緯もあるので、この会議で情報提供して下さっているということによろしいか。何かお尋ねしたいことがあれば、この場で聞くことも可能であるか。6小は第一校目ということで取り組

んでいるので、6小が順調にいくように皆さんからのご意見などがあるかと思いがいがあるか。

(齊藤副議長)

清瀬市では、コミュニティ・スクールをどんどん進めていくという状況だと伺っているが、例えば、学校運営協議会、研修会等があると思うが、学校支援本部コーディネーターが参加をしているいろいろな情報を得ることは出来るのか。

(事務局)

参加していただくことは可能だと思う。事務局からも出来るだけ情報提供するようにはするが周知不足な部分もあるので、今後、学校運営協議会の詳細を学校支援本部のグループメールで配信させていただく。

(高井議長)

これから推進していくという意味からも、そのような研修の機会があれば、学ぶ機会の提供ということで関係者の方には周知をお願いできればと思う。単純な質問で恐縮であるが、先ほど校長先生の方から4点の報告事項ということで、ミストの取り付けについてお話があったが、学校支援本部で取り付けたということで本部予算で対応したのかと思うが、経費の出所はどこか。あと1点、自動販売機の設置者はどなたであるか。売り上げが、コミュニティ・スクールや学校支援本部で使えるということであれば、ちょっと確認したいなと思った。

(事務局)

ミストの経費は学校支援本部の積み立てている予算の範囲内で設置していただいている。

(高井議長)

その原資というのは市の予算か。それとも支援本部の委員の皆さんの活動の中で生まれた収益か。

(事務局)

六小の学校支援本部独自の活動で収入を得た積み立て、とお聞きしている。自動販売機は市がこれから設置するものになると思う。まだはっきりしたことが分かっていないが、各公共施設や学校でも置きたいという所があれば市全体の収入として収益を上げたいという方針なので、学校に設置したものは学校の方に手当できればと考えている。

(高井議長)

様々な設置の仕方があると思うので、効率的な形でやっていただければと思う。契約の上で電気代はどこが負担するかという議論もあると思う。例えば、福祉団体が設置して収益を上げ、福祉団体の収入になるケースもあるので、適切に進めてもらいたいと思ってお尋ねした。色々な意味で六小がモデルになる可能性があると思うので、新しい取組も多く出てくると思うが丁寧に進めていただくと次に繋がると思う。

報告の二つ目の社会教育委員第4ブロック研修会のご説明をお願いしたい。

#### 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会について

(事務局)

明後日の令和4年10月26日水曜日、午後2時から午後4時頃に小平市のルネこだいらで第4ブロック研修会が開催される。今回は、齊藤副議長、西田委員、事務局で参加する予定である。研修会のテーマとしては、「地域学校協働活動を円滑に進めるために」というもので、小平市の社会教育委員の井戸議長から、「小平市における地域学校協働活動について」の事前発表と、武蔵野美術大学の斎藤教授から、「地域活動における繋がりづくりと学びについて」というテーマで講演をいただく予定。その後、グループワークや発表が予定されている。次回会議で報告させていただきたいと思う。なお、今年の都市社連協の会議は、令和4年11月10日・11日の関東甲信越静山梨大会。令和4年12月10日の昭島市で実施する交流大会。この二つを予定している。

(高井議長)

私は、都合がつかず欠席させていただき予定である。齊藤議長と西田委員で参加していただく予定なので、次回ご報告をお願いしたい。

関東甲信越静山梨大会と交流大会も予定されているので、都合のつく方は参加いただければと思う。数年前に生涯学習センターでやったと思うが、当分清瀬市が幹事市になることはないという認識でよいか。

(事務局)

数年後にまた担当する予定なので、その際は清瀬市の方でテーマを考えて皆さんをお呼びして開催する予定である。

(高井議長)

そういったものがあるということを念頭に置いておいていただければと思う。

続いて「20歳の集い」も説明するのかわ。

(事務局)

次第に記載していなかったが追加で「20歳の集い」についても報告させていただきたい。

(高井議長)

お願いします。

## 令和5年清瀬市20歳のつどいについて

(事務局)

令和5年の「20歳のつどい」は、令和5年1月8日の日曜日に清瀬けやきホールで開催を予定している。今回も新型コロナウイルス感染症拡大の防止の観点から、式典を昨年度同様2回に分けて開催予定である。

1回目の開場が午前9時40分。式典は午前10時から11時まで。展示等の企画を午前11時から11時40分まで実施。

2回目の会場は午前11時40分。式典は正午から午後1時まで。展示等の企画を午後1時から午後1時40分まで実施。なお、式典は大ホールで行い、展示等企画は2階会議室で開催する。

次に式典の対象者は、平成14年の4月2日から平成15年の4月1日までの760人を予定しており、各回266名の来場を想定している。

1回目は、清瀬第2中学校、清瀬第4中学校の学区域が対象で、2回目は清瀬中学校、清瀬第3中学校、清瀬第5中学校の学区域者を対象とする。なお、市外の公立中学校や私立中学校の卒業生については、振り分けは行わない予定である。

次に内容についてであるが、式典は全体で1時間を予定している。式典の内容は資料の通りである。その後、恩師の先生からのビデオメッセージの上映と実行委員会によるシティプロモーションの企画を行う。式典終了後は、参加者には大ホールを退出していただきそのまま帰宅していただくか、または、2階の会議室で行われている展示等の企画へ移動していただく予定。こちらは任意である。2階の会議室では、実行委員会による恩師の先生からのメッセージカードの展示と「恩師の先生にメッセージを送ろう」という企画を各回40分、1回目と2回目の式典終了後に実施する予定である。

最後に司会と20歳の抱負の発表者については、20歳の抱負の発表者は実行委員二名、司会は昨年度20歳の抱負発表をしていただいた中島様と佐伯様の二名に司会をお願いする予定である。

(高井議長)

実行委員の方々と話し合いながらここまで準備してきたという認識でよいか。また、式典からシティプロモーション企画まではけやきホールの中で実施するのか。

(事務局)

大ホールの中で実施する予定である。

(高井議長)

先生へのメッセージカードが送れる企画等は、式典が終わった後に会議室等で実施するという認識でよろしいか。

なぜ「20歳のつどい」のことを報告していただいたのか私なりに考えたが、社会教育委員の会議で「20歳のつどい」の企画に携わってきた経緯がある。特に、司会や抱負発表を誰に述べていただくか検討したり、アトラクションについても企画提案をおこなってきた。その中でも、できるだけ実行委員会形式にした方が良いということはずっと話してきて、初めて今年実施されたということで大変嬉しく思っている。「20歳のつどい」を応援することが社会教育委員の活動の大きな柱の一つであったので、今回報告していただいていると考えている。

社会教育委員は、毎年数名式典当日に伺って、受付や案内などを担当させていただいている。私も4回程参加させていただいているが、可能な方は令和5年1月8日に行って頂ければと思う。職員が多く動いているが、出来る限り応援をしましょうということである。去年は社会教育委員が3人行ったので、2階の退場口で誘導する係をさせていただいた。可能な方は清瀬の成人式はどのような状況なのかを見る上でもご参加いただければと思う。通常の成人式は9日月曜日だが、清瀬は例年日曜日に実施している。

実行委員は何人ぐらい参加されているのか。

(事務局)

9名である。10名を想定したが、9名の方に応募いただいた。

(高井議長)

来年20歳になる方と今年20歳になる人が集まったことはすごいと思う。この方々が清瀬の様々な活動の担い手になっていくように繋がっていくと嬉しいと思う。長期的にどうなるか分からないと思うが、「20歳の集い」が18歳成人との関係で対象が下がるのか、それとも清瀬市は、18歳で成人を迎えるが式典は20歳で実施する方向でいくのか、どのような方向性になりそうか。事務局の考えを教えてください。

(事務局)

成人年齢は18歳になったが、社会教育委員の会議で諮った中で、「20歳の集い」という形で式典は20歳を対象に実施することになっている。26市各市それぞれ名称は様々であるが、20歳を対象に実施していく自治体が多い傾向である。

(高井議長)

全国1800程度の自治体があるが、ほとんどが20歳で実施するようである。ただ、幾つかの自治体は18歳を対象にするところもある。また、過渡期には式典を3回実施するところもあるようである。

(事務局)

18歳だと大学受験や就職などに重なってしまうということがあり、参加者も少なくなってしまうことが予想されるので、今まで通り20歳でお祝いしようという形になっている。

(相蘇委員)

式典参加は市内に住民票が登録されている人に限るのか。そうすると、すごく厳密に言うと18歳を超えて例えば大学などで地方に行っている場合は、選挙との関係で言うと住民票をきちんと移動するようという指導をしなければいけないということがあると思う。私の世代だと、地方の大学に行った子は成人式が終わるまでは清瀬に住民票を残したまま住民票を動かさない、というのが一般的だった。当時は20歳にならないと選挙権がなかったのであまり関係なかったが、そのあたりのところも今後意見や問題として出てくるのかなと思う。

(事務局)

「現在は市外に住んでいるが清瀬の式典に参加したい。」という方から問い合わせがあった際は、希望の住所に別途案内状を送っている。私立中学出身の方には好きな回に出ている。

(高井委員)

厳密に行う部分と住民票があろうがなかろうが受け入れている部分もあるというイメージだと思う。

最近は本当に静かな成人式だと感じているので、嬉しいと思う。数年前は私も自治体職員だったが、その時は、区長に向かって一升瓶を持って走っていったり、東京武道館でやったのでアリーナ席から飛び降りたりなどもあった。

成人式については以上である。

### 3 意見交換

清瀬市文化協会及び文化祭の今後の方向性について

(高井議長)

では、続いて意見交換を行いたい。前回、文化協会自体がよくわからない中で意見交換したが、前回の議論や意見交換したものを事務局で整理していただいたので、報告していただくと思う。また、これからの文化祭の動向についても話を伺いたい。市民文化祭は補助金を出している大変意味がある事業なので、方向性についても一緒に話をしていければと思う。

個人的な私の考えでは、文化協会の現状について文化協会の皆さんがどのように考えているのかが一番大事になってくると思う。当時者不在のところ議論するのは難しいと思っているが、そういうことを踏まえながら、外部だからこそ気が付く意見などがあると思う。まずは、前回の整理を含めて事務局からご説明をお願いしたい。

(事務局)

前回の会議では、文化協会の今後のあり方と市民文化祭を盛り上げる方策の2点について議論いただきたいと事務局からお願いした。前回皆さまから、文化協会の存続についてはその当事者の意思の部分なのでこの会議で議論できる内容ではないが、文化祭の運営の今後の方向性であれば会議の中でアイデアを出すことができるのではないかと、などのご意見をいただいた。そこで、今年度の残りの会議では、「市民文化祭の今後の方向性」という部分に絞って意見をいただきたいと思っている。

この議論のゴールとしては、皆さまからいただいたご意見を社会教育委員の会議の報告書や提案書のような形でまとめ、文化協会へお伝えしようと考えている。専門外の分野の議論のためご負担をおかけするが、もう少しご協力をいただきたい。

本日は、今まで出た意見で足りない部分を肉付けするような形でご意見をいただき、さらに次回の会議までに再度事務局の方で整理する流れを考えている。

高井議長からは、「文化協会の存続という部分については、本人たちの意思の部分なので、文化協会を存続させるための議論はあまり意味がないのではないかと。また、今の形態の協会を無くすことも含め議論することも一つの方法であると思う。」というご意見をいただいた。また、議長から市の方向性の重要性に関して、「市の大きな方向性がないまま、文化協会や市民文化祭の話をして浮ついてしまうので、どれほどの意味があるのか疑問である。」というご意見もいただいた。

また、文化団体同士で話し合う機会の創出ということで、「今年の市民文化祭には清瀬高校も出るとのことなので、文化活動を通してどのようなまちを目指していくのか、色々な方と話ができればよいと思う。」というご意見をいただきました。

次に、文化協会の存在意義という部分に対しては、「清瀬市の文化振興の一翼を担うということを経営でやってきた歴史が今まであったわけなので、そのように考えるととても意味や意義がある事業であると思う。今後、文化協会は何をして何を担っていくのか、そ



して何を指すのかという確認を文化協会の方もしなくてはならないと思う。そして、清瀬で様々な文化活動をしている人たちが出会う場でもあるので、そういった意味では、高校生や大学生のサークルが出るなど、色々な人が出会う場を文化協会が作り出していくことも大切であると思った。つまり、若い方の発表の場を作ったり世代を超えた出会いの機会を作るなど、そのようなことがもしかしたら文化協会の一つの役割であり、市民文化祭がそのような場でもあると感じた。」というご意見が議長からあった。

続いて、西田委員からは、文化協会の今後の形態についてご意見があった。

「例えば別の形でリニューアルするというような発想はどうか。少し興味の対象を若い世代の方に絞ってリニューアルをさせるのも良いのではないか、というご意見があった。

松山委員からは、文化協会の課題という部分についてご意見があった。

「清瀬の文化活動を通して色々な団体や住民の方々方が協働することを通して、清瀬をこんな風にしていきたいという部分があり話し合われていないことや理念が共有されていないことの方が課題なのではと思う。市内で、色々な世代の方が発表されているということなので、その方々に集まっていただいて、文化活動を通して清瀬をこんな風にしてみたい、などの議論をワークショップ形式等で行うのが良いのではないか。そのような対話の場があると良いと思った。」というご意見があった。

最後に、玉置委員から文化祭を盛り上げるための方策として、「子供が来ると保護者の方々もセットで来ていただけるので、小中学生に参加していただくことが大切。まずはその催しの場に来てもらうことで、それをきっかけに他の文化の催し物などに興味を持ってもらう可能性がある。」というご意見をいただいた。

簡単ではあるが、第3回の会議でいただいたご意見として簡単にまとめさせていただいた。今後は、このような意見を積み重ねるため、ご意見をいただきたいと思っている。

これからは意見交換の時間としたい。事務局からは以上である。

(高井議長)

前回、議論したことをまとめいただいたが、ご質問などがあれば自由に意見を出していただければと思う。今すぐに整理をする必要はないと思うので、私どもの任期が終わるときに何らかの形で少し整理したものが教育委員会にお渡し出来るようにすればいいのかなと思っている。

今後の市民文化祭の方向性という部分の意見交換をお願いしたいという提案が事務局からあったので、思ったことを発言してもらい、後で整理すれば良いと思っている。

(永嶋委員)

文化祭の目的の部分が見えないと感じた。もし目的があるとしたら、共有されていないのではないかという風に思った。また、各団体がそれぞれ発表されているようだが、やはりその団体の方々の発表の場のみになっている印象を受けた。団体の内容も特に高齢世代の方

が好むようなものが多く、あまり今の若い人たちが参加しないような活動が多いのではないかと思った。高井議長の「世代を超えた出会いの機会を作る」というご意見にとっても共感している。

同じ世代同士は、色々な活動を通して繋がっていくので地域の中でも繋がることもあると思うが、世代が離れているとなかなか繋がらないし、繋がる機会が無い。よって、それを繋げていくようなものを目的やテーマとしてやっていくといいのではないかと感じた。各団体がバラバラになっている印象もあるので、色々な世代の交流が出来るようになるのではないかと思った。

(高井議長)

色々な催し物や発表会があるが、全体が何を目指して進んでいるかが見えにくいということが、一番根本の問題なのかと改めてお話しを聞きながら感じた。その中で、「世代を超えた交流の場」になっていくというような、大きな柱になる可能性もあるのではないかと改めて感じた。今年は清瀬高校も出て下さるということだが、出ること自体はとても交流の第一歩になると思うが、世代を超えた交流をどのように作っていくのかを考えなければいけない。

(玉置委員)

前回の会議でこの意見交換会した時、帰り際にふと思ったが、例えば、文化協会や文化祭の実行委員の方に来ていただいて、生の意見や現場の意見を発表していただければ、より私たちも理解しやすいのかなとおもった。結局、事務局で思いを伝えてもなかなか見えない部分があると思うので、意見交換会みたいな時間を少し取ることは出来ないのか。

(事務局)

事務局からこのような内容で社会教育委員の方々から意見を頂きたいということで、議題に出してきたが、経緯を説明させていただくと、文化協会の役員が高齢化して文化祭を行うのも結構大変になってきていて、役員もなかなか引き継ぎができない、という状況になってきている。そのような問題点がある中で、協会の問題は協会で解決欲しいということをして市からはお願いしている。今、永嶋委員からも意見があったが、年代がかなり上がってきてその方たちの発表の場だけに偏ってきてしまっていて、世代が繋がるような形にはなっていないのが現状だと思う。会長からは、「高齢化してきて様々な課題があるのは自覚しているが、私が会長の間はこのままでやっていきたい。」という意見もあるので、社会教育委員の会議からは、見直しを促すための「提案」のような形でいただければと思っている。なので、今回役員の方を呼んで発表していただくのは、逆に余計なお世話になってしまうと考えている。私としては、文化協会の役員さんに見直しを提案するような形で、社会教育委員の皆さまに諮った次第である。

(高井議長)

以前、生涯学習の基本方針の前にスポーツの基本方針を作ったが、その時は、体育協会や総合型地域スポーツクラブを運営されている方などの当事者に来ていただいて、意見交換を行いそれから提案していこうとした。

現会長が、「私が会長の時はこのままでいい」と言っているのであれば、やりにくい部分があるかもしれない。たしかに会長の想いも大事であるが、市として補助している事業であり補助金を効果的に使っていただきたいので、より活性化する方向で考えていくことは事務局としてもぜひ引き続きお願いしたいと改めて感じたところである。

どこかのタイミングで、文化協会の皆さんの声を聞くということもできればやっていった方が地に着いた議論がしやすくなると思っている。

(永嶋委員)

今までのお話を伺って、文化協会だけではなくて、地域の自治会や地域のボランティア団体も全く同じ傾向で、役員になる人がいつも同じで世代によって変わっていかない状況にある。例えば、地域で行われている高齢者サロンなどもそうだが、それを始める方々もずっと固定化してしまって新たなメンバーが加わっていかない。新たなメンバーを加えようとしても、既存の人たちが固まっていると入りづらい状況になっている場合が多い。新たな人たちは、自分たちがやりたいと思ったら新しい団体を作ったりするので、そうすると今までの団体は今までの人たちがどんどん年齢を重ねていってメンバーが変わらずに内容もマンネリ化してしまうという状況。

おそらく、自治会活動もほぼ同じような感じで新たに外から入ってきた新しい住民が自主的に加わるというのはほぼ無く、入る人は誘われたから仕方なく入ったという場合が多い。つまり、役員や団体を引っ張っている人たちの意識が変わっていかないことには、外部から言ってもなかなか難しいところがあると思う。今まで仲良くやってきた人達は、体制を崩したくないと思ったりもする。文化祭とか文化協会などもそうだと思うが、始めた時はすごく皆さん、「これをやりましょう！」と意識が高く意気込みがあるが、月日が経っていくごとに変わっていってしまう。月日が経つごとに「やらないといけないもの」に変わっていきまったりして、毎年「時期が来るからこれをやらないといけないね」という風になってしまい、実施する意義が見い出せなくなってきてしまう場合があると思う。様々な地域のボランティア団体などを見たり話を聞いたりすると、やはりどこもそのような感じなので今回の文化祭とか文化協会についても皆様からお話を伺ってそのように思った。そういった中で、本当に各団体が個々に発表していくのではなく、もし活性化できるとすれば、色々な団体がそれぞれ協力して他の出し物を行ったり、自分たちの発表だけではない他の取り組みのがもっと必要なのかもしれないと思う。

(高井議長)

清瀬に限らず本当に色々な地域の団体が高齢化している。その一方で、新しい方が入ってこないと言いながら入れようとしなかったりもする。

(相蘇委員)

小中学生に参加してもらおうと盛り上がるというご意見もいただいている、小学校で校長をやっている身としては非常に心苦しいが、多分、小中学校の子供たちが参加することがあったとしても、保護者は自分の子どもが出る場面しか見に来ないし、その他の団体との関係を持つという何かがないと、難しいと思う。学校の行事ですら、自分の子供の出番が終わると帰ってしまうので、運営に参加しようとか何かの係をやろうということには非常に消極的な方も多い。

コロナでこの3年ぐらい入場制限していて、「自分のお子さんの出番の時だけしか来ないでください」と学校が言っているのも、それも原因として大きいと思うが、やはり子供たちが何かで参加するのであれば、それぞれの部の中に子供の部があるなどの形でないと、小中学生の団体が参加するだけでは世代の繋がりにはなっていない気がする。

高校生が参加してくれて少し世代が下がるのであれば、高校生にその会の運営の他の団体の係をやってもらおうような参加の仕方にするなども考えられる。例えば、会場整備でもいいし受付でも良いと思う。例えば、「出演する代わりにその演奏が終わった後は次の団体のお手伝いをやってくださいね」みたいな形で少しずつ広げていくようなイメージ。とても時間はかかると思うが、ある程度の強制力がないと自分の関係あるところには関わらないのが今の若い方たちの思考なのかなという気がしている。

(高井議長)

保護者も自分の子どもの出番が終わったら帰ってしまうということなのか。

(相蘇委員)

以前は、「1年生から6年生までずっと見ないといけないのか」と言っていた方がいたが、逆にコロナで制限がかかったら、そのことには不満が出てしまった。「うちの子が1年生だからといって6年生のところが見たくないわけじゃない。なぜ6年生のところが見えないのか。」という声は出るから、この後コロナのことが少しずつ緩和されてどの時間でも見ても良いとなったときに、どのように保護者が動くかは分からないが、今は、1年生の出番が終わったら1年生の保護者は帰ってしまうことが多い。

(高井議長)

非常に大事なお話しをしてくださったと思っている。

清瀬高校が出てくれるのは非常に嬉しいが、「お客さん」で出て終わってしまう可能性が

ある。「お客さん」から主体的な運営になっていくのであれば、相蘇委員がおっしゃったように、受付や全体の司会を引き受けるとか、何か運営に関する役割を担っていくことが必要。それはすぐに出来ることではないと思うが、今年は少しこの部分を若い人に担ってもらおうとか、なかなか年齢が高い方だと机を運ぶのも負担なので、準備を高校生や若い人が担うなど、目に見えないところでの交流を積み重ねていくことが必要なのではないかと。

市民文化祭の大きな目的は、「文化の振興」であるわけだが、もう一つの目的として、交流を作っていくという風に考えると、少しずつ実現に近づいていくように感じた。

(永嶋委員)

今、議長がおっしゃったことに非常に共感した。

少し話が逸れてしまうが、今、子供と高齢者の世代間交流活動は色々な場所でやっているが、世代間交流というのは大体「団体」と「団体」の場合がほとんどである。具体的には、例えば、「学校」と「高齢者施設」などであるが、世代間交流という名称にはなっているが、個と個の交流はほとんど無く、団体で行って運動会を見たり団体で子供たちが来て何か出し物をやる、という風になる。それを世代間交流と言っているが、実際のところ、「場を共有する」という意味では交流にはなるが、個と個の繋がりが出来ないためお互いの理解まで繋がっていかないと思う。

そのため、今のようなご提案で、高校生が高齢化している団体の中で何かの役を担うとか、あるいは、ここの団体の中の方々が高校生が何かやる時に何か役を担ったりお世話をしたりという形ができれば、もう少し個と個の繋がりができてお互いに理解が進むのではないかと思う。

ここ30年ほどの間に、3世代世帯などは激減しているので、自分の身内ですら他の世代と関わらなくなってきた状況である。まして血の繋がらない世代を超えた人たちと繋がるというのはほとんどなくなってきたので、やはりそのような機会を作っていくことが非常に大切だと思う。

(松山委員)

皆さまがご指摘くださったことに共感しながら聞いていた。今、若い方々の話が出ていたが、私が学校の先生に伺ったり自分が接している中で中高生ぐらいの世代の方々に感じることは、異世代との交流があまりない中で、なかなか自分から交流していこうという風には子供たち自身がならないと思っている。一方で意外と誰かの役に立ちたいとか、何か社会のために自分が役立ちたいという気持ちを今の若い子たちはとても持っていると思う。社会にすごく関心を持ってる子が多い印象を受けるので、上手く交流の場を作る中で自分が誰かの助けになったという感覚を得られる経験ができると、その子たちにとって良いのではないかと思いながら聞いていた。

(高井議長)

誰かの力になった経験は、子供たちも経験したいという想いがあるなど私も感じている。なぜかという授業の中で色々な活動をしている大学生が増えている。土日を使って子供たちのための「子供会」のようなものを行っていたり、東三陸の支援などを行っている学生もいる。様々な取り組みを学校生活の中で普通にやっていた生徒が増えていると感じている。そのような学生が社会教育主事のような資格を取ろうとして来ている可能性はあるので、普通の学生とは少し違う部分もあるかもしれないが、色々な活動を行って役立っていることを感じてきた人が最近増えているような想いがある。身近で誰かの役に立ったり、異世代の方と交流しながら、「ありがとう」と言ってもらえる経験などはとても大きな力になっていくと思う。社会教育や文化活動は人が育っていく場になるので、改めてそのような場にしていかなければいけないと強く感じたところである。

今日答えを出す訳ではないので、今日の指摘事項をまた整理しながら引き続き考えていきたい。社会教育委員として考えたことを文化祭の当事者の皆さんと意見交換する中でお伝えしていったりすることで、何か見えてくるものがあるのかなと思っている。

また、文化祭を実施する上で支えていく若い人たちがいなく実働できる人が少なくなった結果、自分たちの発表機会だけはなんとか確保している、というのが文化祭の現状だということも共有できたと思う。

それだけだと、各団体にとってはいいかもしれないが、それが清瀬の文化と繋がるのか、という部分では見えにくいところなので、その中で若い人たちが活躍できるような文化祭のあり方の新たな展開に繋がる可能性も含めて議論していかないといけないと思う。

(事務局)

事務局にはお手数をお掛けするが、少しまた整理をしていただいて次の話し合いにつなげていければと思う。それぞれ問題意識を持って考えていくと、色々なことで活かせることがあると思うので、次回に向けてご準備いただければと思う。

## 市民の生涯学習活動の支援について

(高井議長)

続いて、私たちは社会教育委員ということで、生涯学習をどう推進していくのか、また、文化もそういった中の一つの活動として、スポーツも含め市民の生涯学習の活動が活発になっていくように支援していくのが教育委員会の役割だと思う。その点について、私どもとしては「生涯学習基本方針」というものを令和3年3月に答申という形で提出をした。市民の活動を活発化するため、基本方針で提案したことが今どうなっているかという確認をするとともに、市民の自主的な生涯学習の活動を活発にしていくための支援策についても考える必要があるのではないかとこのことを事務局とお話した。15分程度の短い時間であ

るが、意見交換をして整理はこれからしていければと思っている。

市民の生涯学習の活動を活発化するためには、どのような仕組みや支援策があればいいのか、自由な意見を出していただければと思う。

市民の団体が何か学びたいことがある時に、生涯学習課に相談すると出前講座のメニューが用意されている。この中に、3年間で実際に利用された件数が出ている。防災防犯課が11回で一番多い。また、郷土の歴史や文化財などの博物館も6回ということで非常に多く利用されていると思う。出前講座も市民の学習を進めていくための一つの支援の仕組みである。会場費や設営費以外は市が負担するということなので、支援策だと改めて思っている。こういったもの以外に、何か学びたいという時に、講師を呼んだときの講師代を負担する仕組みを持っている自治体もある。私も西東京市の公民館委員をやっているが、同様のものがあったり、また、講師派遣を少し超えて、講座の企画を募集してそれが認められると5回連続の講座などができて、市の広報誌に載せて募集もできるというような仕組みがあったりもする。

生涯学習基本方針の中で書かれているものについて、現状どうなっているのかという疑問などがあればそういったものも出していただいても良いと思う。

個人的な意見では、清瀬の生涯学習の中心的な柱となる事業が必要なのかなと思っている。例えば、長期的な学習の講座が、最近色々な自治体で展開されている。まちづくりの担い手を養成したり、千代田区だと「千代田コミュニティカレッジ」という2年間ぐらいの学習があったり、荒川区でも「荒川コミュニティカレッジ」というものがある。それぞれ有料で実施している。1年間で1万円程度で、20数回の授業ということでかなり長期にわたる事業である。荒川区では、講座が終わると20幾つのNPO団体が生まれ、地域で様々な活動をしている。年に1回、学園祭でいろんな団体が出てきて、活動発表するという交流もしていて、活動を生み出す学習がかなり丁寧に行われている。清瀬も何か柱になるような事業があるといいなと勝手に想像しているところである。

(相蘇委員)

出前講座は、一つも利用されていないところから11団体の利用があるものまでであると思うが、5人以上で構成された団体で利用しようと考えたときに、これはどのような団体を対象にしているのか、また、どのような層にアプローチしたいのか、ということが非常に分かりにくいという気がした。講座名を見ると聞いてみたいものはたくさんあるが、実際に私が5人以上のメンバーを集めてお願いしようということになれば、清瀬に住んで清瀬に勤めている私でも少し難しいと感じてしまう。例えば、働いている世代の人が老後に向けてこのようなものを利用するとした時に、5人集めてというのは難しいかもしれない。例えば、指導課でやっている「次期学習指導要領について」や「学力向上の取り組み」という講座は、PTAの保護者の方々は興味があるかもしれない。それであれば、そのPTAの方々に周知して、PTAの学習会などに指導課の先生に来てもらって勉強会をする、などと具体的に考

えていかないともったいないと思う。

おそらく、防災防犯課の「安全安心のまちづくり」の講座は、地域の町会などで申し込みやすいと思う。例えば、「農業について」という講座も聞いてみたいと思うが、これは農業に就いていない方に農業のことを説明するのか、それとも、現状の清瀬の農業に対してもっとこういう協力をして下さいみたいな話になるのか、そういったことが見えにくいと思った。ゴミに関することについても、アプリも新しくなって粗大ごみもアプリで申し込めるようになっているが、そういうことをお知らせしていきたいのか、それとも、みんなでゴミのリサイクルやSDGsについて考える教養講座的なものになるのか、そういった中身が見えてくるともっと参加しやすくなると思う。5名以上のグループが組めない方のために、例えば、市役所で期間を決めて相談会を土日も含め実施してもらえると良いのかなと思った。かなり個人的な感想だが、現状の出前講座だと市民でも参加出来ないなと思いながら見させていただいた。これだけメニューがあるのに活用されないものがあるのはもったいないと思う。

(齊藤副議長)

出前講座がこんなにたくさんあるとは正直知らなかった。「障害のある人に暮らしやすい社会を目指して」という講座があったが、今市内小学校から障害のある人の暮らしについてお話しできる方はいないか、という依頼を受けているので、もう少し分かりやすく市民や学校に教えていただくと、もっと活用されていくのではないかと先生のお話を聞いて思った。

(高井議長)

清瀬の出前講座は職員の方が講師になるが、他自治体では、市民編やNPO編があったり、電力、ガス、NTTなどが無料で派遣するものもある。

(永嶋委員)

利用できる方は、概ね5名以上で構成される団体、グループ、サークルとあるが、今5人家族はあまりいないかもしれないので、例えば、隣に住んでいる家族に来てもらうとか、また、大学の授業の中に来ていただくとか、そのようなことが可能なかと思った。

(事務局)

5名以上という形になっているので家族で利用することも可能だと思う。内容については、大まかに表記しているので詳細内容については担当課と相談の上実施することになる。例えば、以前私は水とみどりの公園課にいたが、オオムラサキの幼虫事業で小学校の授業に出前講座で行ったことがある。オオムラサキは国蝶だが、その国蝶が幼虫を育てる上でえのきの葉がないと生きられないので、そのために清瀬市は緑を大事にしているということをお話しした。また、その幼虫を育てようという機会も設けたりしたので、今出前講座に載っ



ている内容は抜粋にすぎないと考えている。

(高井議長)

リクエストした団体と色々な調整をしながら決めていくのか。

(事務局)

生涯学習スポーツ課が窓口になり、別の課と相談をしながら他課を紹介したりすることもある。

(永嶋委員)

例えば、農業のこういった部分のお話を伺いたい、などのリクエストを出して、相談の上お願いするという流れなのか。

(事務局)

おっしゃるとおりである。リクエストを頂いても実施が難しいものもある。職員ができるものとできないものがあり、その時の職員体制によっても左右される場合がある。

(松山委員)

出前講座は今まで知らなかったので詳しく拝見させていただいた。

今回生涯学習活動をする人たちを増やすため、どのようにアプローチするかというお話だったと思う。例えば、出前講座だとそもそも学びのニーズがないのか、それとも市民に届いていないのかいうところで、おそらく届いていないというお話があったと思ったが、同時に見てないということと、もう一つ、「学ぶ」といった時に学ぶをどのように考えるかということがとても気になっていて、単に知識を得たりインプットするだけが学びではなく、社会教育の学びは、もう少し仲間を作ることや皆で学習することの意義も大事にされていたと思う。そう考えると、出前講座が並んでいるのを見たときに、学びの楽しさやワクワク感のようなものがあまり伝わってこないと感じた。そうすると、やはり同じ内容を楽しく学べるY o u T u b eのようなもので学ぶ人が増えると思うし、民間の講座に行く人が増えるのは仕方ないと思った。色々な人と繋がって新しく何かやってみようと思えるとか、そういうことも含めた学びをイメージしながら、広報したり場を作るということを考えていくともう少し市民に届くものになると思った。

もう一点、事前にお送りいただいたメールの中の、「生涯学習のポイント制度」に関しては、そういう意味では逆行する活動のような気がしている。つまり、ポイントを得たり賞与を得るためにやるというとすごく義務的なものだと思う。もちろんそれが楽しいと思う方もいるかもしれないが、賞罰よりは学ぶことで色々と人と繋がれるような場になると、文化祭の交流の話とも繋がってくるような気がする。学習と言ったときに、どのような

学習をイメージするのかがもう少し上手く練られていた方が良いということである。私としては、知識を得るということだけではなく、学ぶことが楽しいとかワクワクするとか、何か新しくやってみようとして前向きな気持ちになれるとか、そういったことも含めた学びというもの社会教育と生涯学習の学びにおいては大事だと考えている。

(高井議長)

今日は色々な意見交換を行った。出前講座もより良くなるにはどうしたらいいかということも大事なことであり、市民の生涯学習活動が活性化していくにはどうしたらいいかということも色々なものがあると思うので、これから色々な話し合いが出来ればと思う。そういったことを幅広く議論して整理をしていければと思う。

私どもの任期もあと1年ということで限られた期間ではあるが、出来る限り何か残せればと考えている。今回は入口の議論ということでこれで終わりたいと思う。事務局の方からこれからの日程の確認等をお願いしたい。

(事務局)

最後に事務局から次回の社会教育委員の会議の確認をしたい。次回第5回の会議は、令和4年12月23日の金曜日である。毎年12月だけ金曜日となっており今回も教育委員との懇談会を予定している。現在、開催時間を教育総務課と調整中のため、決まり次第追ってお伝えする予定である。

最後になるが、市民文化祭ののぼり旗が街中に設置しているので、お帰りの際に見ていただければと思う。事務局からは以上である。

(高井議長)

ちなみに旗はどなたが立てているのか。

(事務局)

文化協会の実行委員の方々が分担して立てている。

(高井議長)

動ける方もいるということだと思うので、文化協会の可能性はまだまだあると感じる。